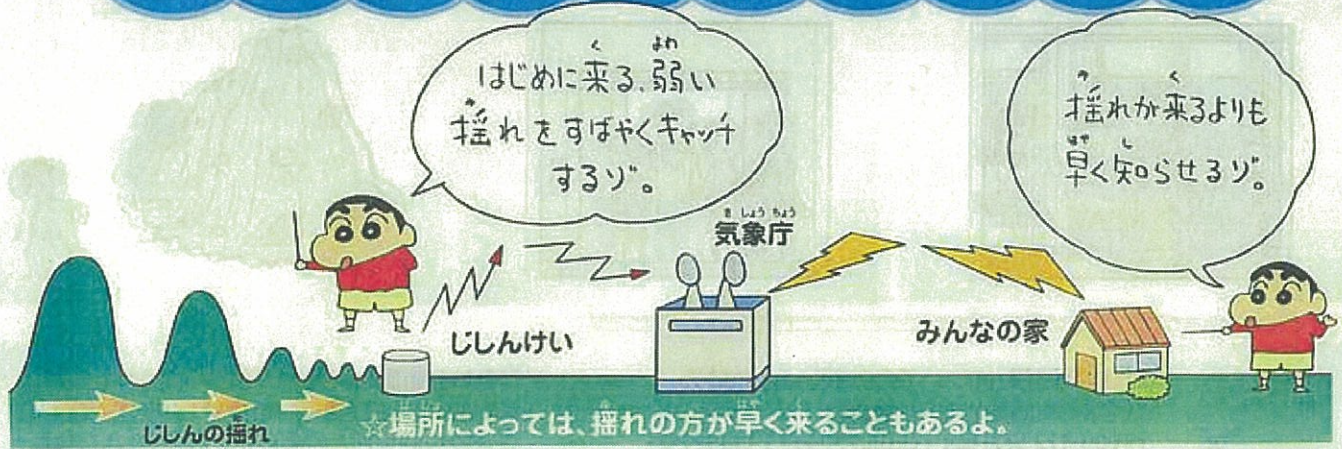


緊急地震速報きん きゅう じ しん そく ほうって知ってる!?

平成19年
10月1日スタート!

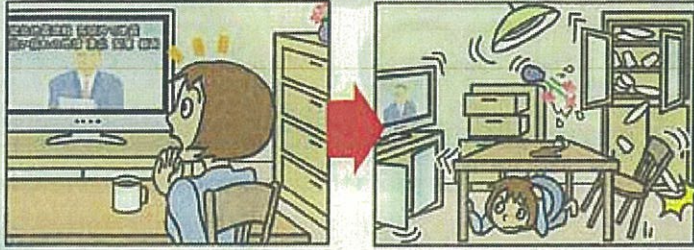


緊急地震速報きん きゅう じ しん そく ほうのしくみ



国土交通省
内閣府・気象庁

- 家庭では
- ・頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
 - ・あわてて外へ飛び出さない
 - ・無理して火を消そうとしない



人がおおぜいいる施設では

- ・係員の指示に従う
- ・落ちついて行動
- ・あわてて出口に走り出さない



緊急地震速報「利用の心得」

自動車運転中は

- ・あわててスピードをおとさない
- ・ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促す
- ・急ブレーキはかけず、緩やかに速度をおとす
- ・大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止



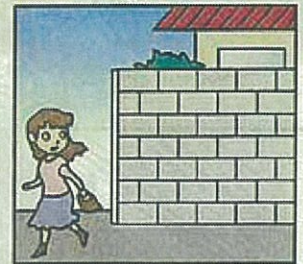
周囲の状況に応じて

あわてずに
まず身の安全を確保する！

緊急地震速報は見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません
その短い間に身を守るための行動を取る必要があります

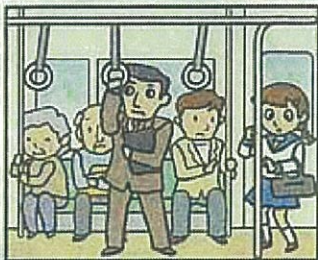
屋外(街)では

- ・ブロック塀の倒壊等にご注意
- ・看板や割れたガラスの落下にご注意
- ・丈夫なビルのそばであればビルの中に避難



鉄道・バス乗車中は

- ・つり革、手すりにしっかりつかまる



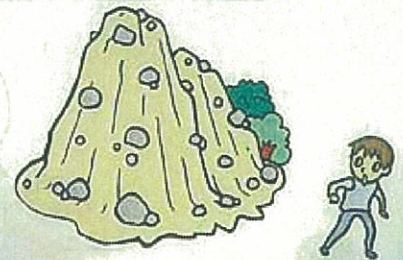
エレベーターでは

- ・最寄りの階で停止させすぐに降りる



山やがけ付近では

- ・落石やがけ崩れにご注意



「緊急地震速報」についてのお問い合わせ先
 気象庁地震火山部管理課
 〒100-8122 東京都千代田区大手町1丁目3番4号
 電話：(03)3212-8341 (代表)
 気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/>
 緊急地震速報について
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/index.html>

※緊急地震速報は、独立行政法人防災科学技術研究所による技術開発の成果と、財団法人鉄道総合技術研究所と気象庁による共同技術開発の成果により、可能となりました。



緊急地震速報の仕組み

(参考資料)

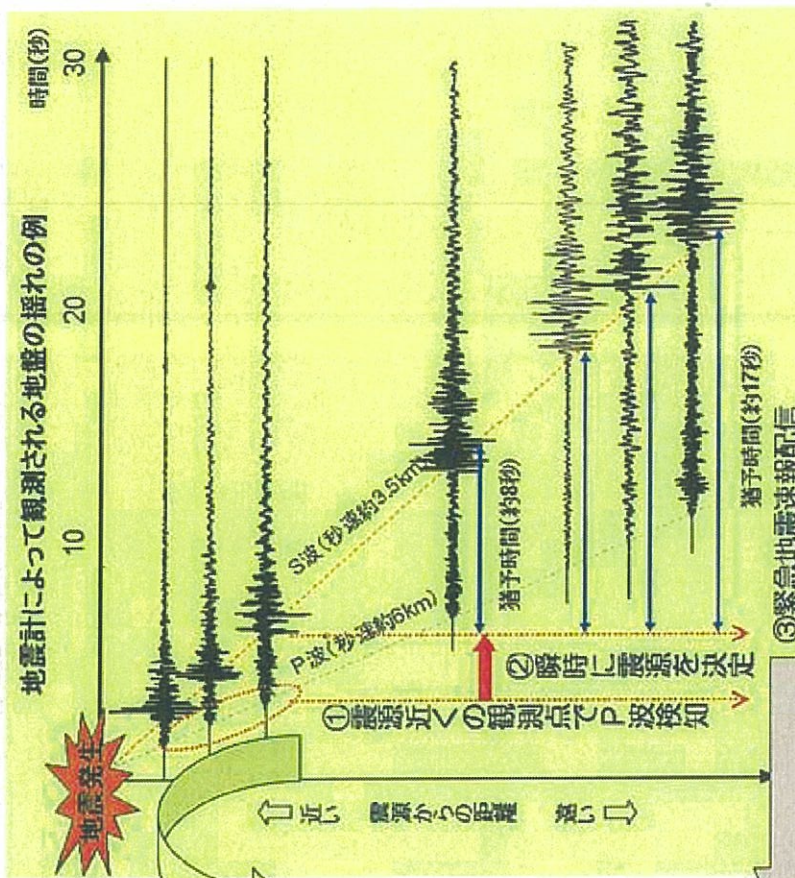
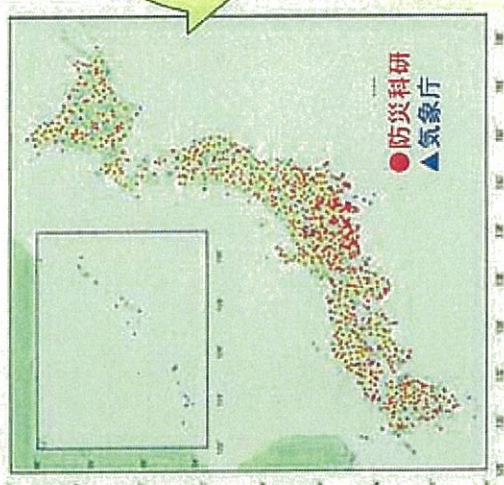
平成19年10月1日から、緊急地震速報の提供が始まりますが、この緊急地震速報が実現するまでには、気象庁や防災科学技術研究所などによって、様々な研究開発が進められてきました。ここでは、平成15年度から5年かけて行われている文部科学省の「高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト」の成果を中心に、緊急地震速報の仕組みについて紹介します。

◆ 全国に展開された

地震観測網でP波を検知

地震はいつでもどこで発生するか事前に予測するのは難しいものです。そこで緊急地震速報では、全国に展開されている地震観測網(防災科研:約800点、気象庁:約200点)のデータをリアルタイムで収集し、24時間常に地震の発生を監視しています。

地震が発生すると、大きな揺れ(S波)の前によつて来る揺れ(P波)を検知して、さまざまな手法を用いて、即時的に震度の推定が行われます。

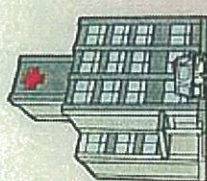


◆ 緊急地震速報の活用

緊急地震速報が伝達されてから大きな揺れ(S波)が来るまでの間に行う防災対応については、学校や病院、工場などを対象として、防災科学技術研究所を中心に様々な分野で調査・研究を行っています。



学校での学童・職員
の安全確保や防災教育



患者・医療関係者の
安全確保



プラントの機器制御や
作業員の安全確保

<お問い合わせ先>



独立行政法人
防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1
Tel: 029-851-1611
Fax: 029-851-1622

URL: <http://www.bosai.go.jp/>
高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト
<http://www.bosai.go.jp/kenkyu/sokuji/index.htm>

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

文部科学省 研究開発局

地震・防災研究課

防災科学技術推進室

〒100-8959 東京都千代田区

丸の内2-5-1

Tel: 03-6734-4134

Fax: 03-6734-4139